

「生徒」から「生徒」への学びの還元活動

北海道池田高等学校

1 科目「保健」

○ 実施内容

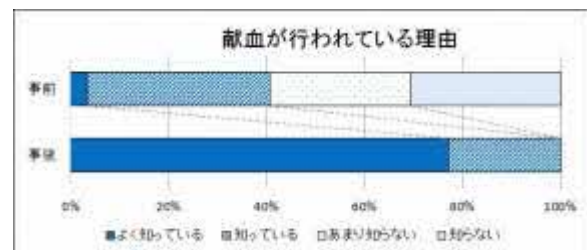
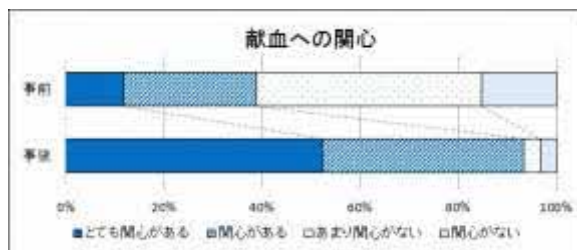
- 保健体育科教諭から、資料「けんけつ HOP・STEP・JUMP」を活用し、輸血や献血の意義や制度、課題について説明
- 養護教諭とティーム・ティーチングで、献血の課題に対して「自分たちができること」についてグループで考察
- 血液センターの講師による献血セミナーを実施し、十勝管内の輸血の実態や献血の必要性を説明



○ 取組の工夫

- 「若者の献血者を増やすためには？」というテーマで KJ 法を用いてグループワークを行ったことにより、一人一人が積極的に意見を出すことができた
- 若年層の献血者を増やすための方法を考えさせた上で、専門家による地域の現状や必要な取組に関する説明を受けることにより、理解を深めることができた。

○ 実践の成果



- 「献血できる場所」「献血できる年齢」「献血の種類や方法」について、事前には 50%以上の生徒が「知らない」と答えていたが、事後にはどの項目においても 90%以上の生徒が「知っている」と回答しており、生徒に献血の知識を身に付けさせることができた。

2 特別活動等

○ 実施内容①「看護師希望者による課題研究」

- 3 学年の「課題研究」において、看護師希望者による「献血班」が、「若者の献血者を増やすために」をテーマとした調査・研究活動を実施した。
- 学習活動の中で製作した「献血啓発ポケットティッシュ」を、校内と町内のスーパーで配付する啓発活動を行った。
- 調査・研究活動の結果を、全校生徒に発表した。



【生徒の感想（課題研究）】

- 実際に献血をしてみて、誰かの命の助けに貢献できたことが嬉しかった。そして、40分で救える命があることを学ぶことができた。感じたことや学んだことを多くの人に伝えたい。
- 高齢化により、献血基準年齢を超える人の増加が予想されるため、少ないと言われている若年層の献血への協力が必要だと感じた。

○ 実施内容②「吹奏楽部による啓発活動」

- ・ 演奏会の会場で、ポケットティッシュを配付したり、公演の合間に献血の呼びかけ等を行った。

【生徒の感想】

- 保健の授業で学んだことをもとに、公演の中でお客さんに声かけをした。発信する立場になることで、改めて献血の必要性を強く感じ、自分も献血に行ってみようと思った。
- 3年生の課題研究の発表を聞いたことで、改めて献血者数が少ない現状を知り、自分たちが行っている活動で、少しでも献血者が増えたらよいと思った。

